虐待防止委員会の設置と運営：組織的防衛策

形骸化を防ぎ、「日常の予防力」を高める実務ガイド

対象：管理者 / サービス管理責任者 / 委員会担当



NotebookLM

結論：虐待防止は「通報体制」ではなく「日常予防体制」

課題 (Current Issue)



委員会が年1回の形式的な会議で終わり、予兆の把握や早期対応が遅れる。

本質 (Core Solution)



事故後の対応ではなく、起こりにくい組織運用（エンジン）を作る。

解決策 (3-Step Method)



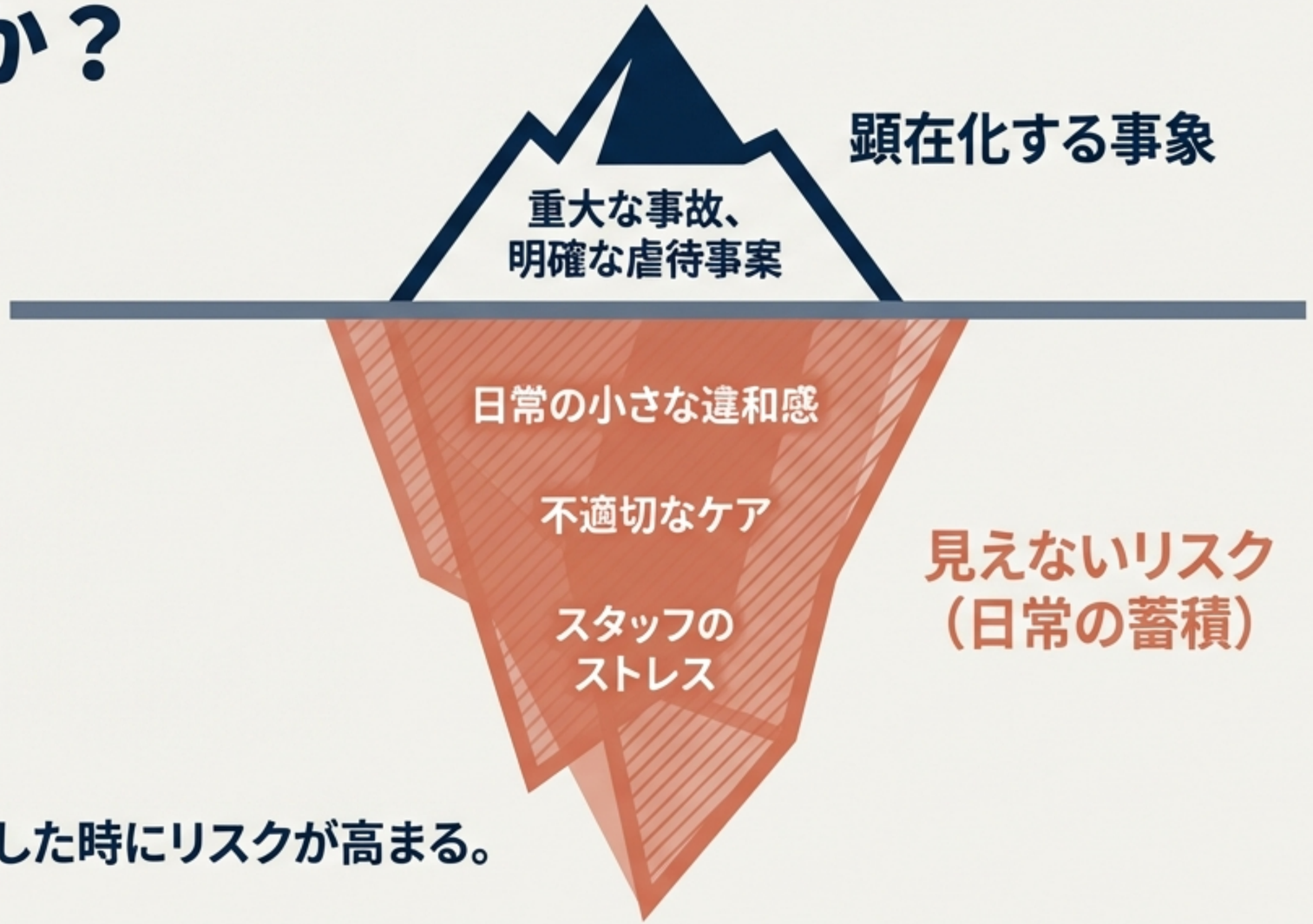
1. 定例運用: 委員会を確実に回す。
2. ルート整備: 迷わない通報経路を作る。
3. 予兆レビュー: 小さな違和感を拾い続ける。

NotebookLM

なぜ、ルールがあっても予防が崩れるのか？

高リスクな瞬間 (High-Risk Scenarios)

- **多忙時**：声かけが強くなり、関係悪化の兆候を見逃す。
- **新人配属時**：利用者との境界理解が浅く、対応が不統一になる。
- **苦情発生時**：個別対応に終始し、組織としての学習に繋がらない。



予兆情報が「個人」の中で止まってした時にリスクが高まる。

NotebookLM

「事後対応」から「予兆管理」へのパラダイムシフト

Old Model (事後対応)



- 焦点：事故が起きた後に誰に連絡するか。
- 行動：重大な事案のみ報告。
- 結果：対応が後手に回る。

New Model (予兆管理)



- 焦点：事故が起きる前のサインをどう拾うか。
- 行動：日常の違和感（ヒヤリハット）を相談。
- 結果：未然に防ぐ「日常予防体制」が確立。

結論：現場で「迷った時にどう動くか」が明確であることが、組織を守る最大の鍵となる。

NotebookLM

組織的防衛を支える3つの柱

組織の安全性（Organizational Safety）

1. 委員会設計
Committee Design

年1回の儀式ではなく、
実務的な定例運用へ。

2. 通報・相談ルート
Reporting Routes

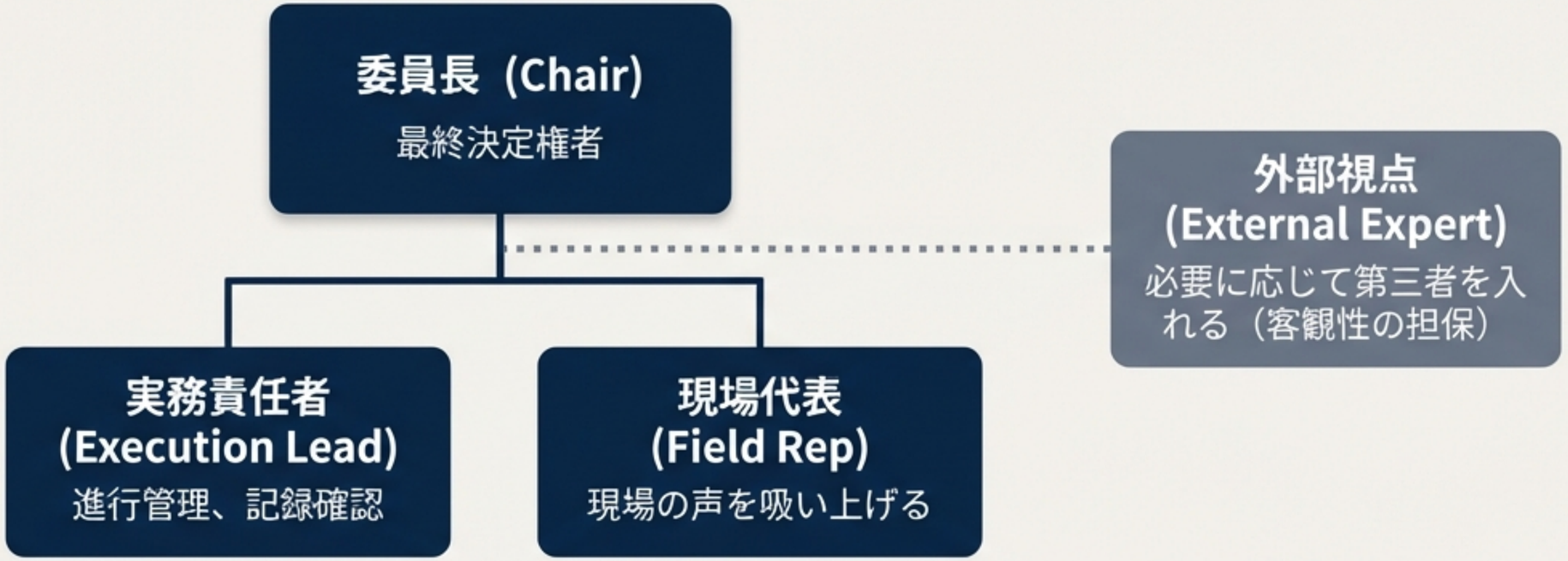
「誰に・いつ・どう」
伝えるかを明文化。

3. 予兆レビュー
Premonition Review

ヒヤリハットや苦情から
リスクの芽を摘む。

NotebookLM

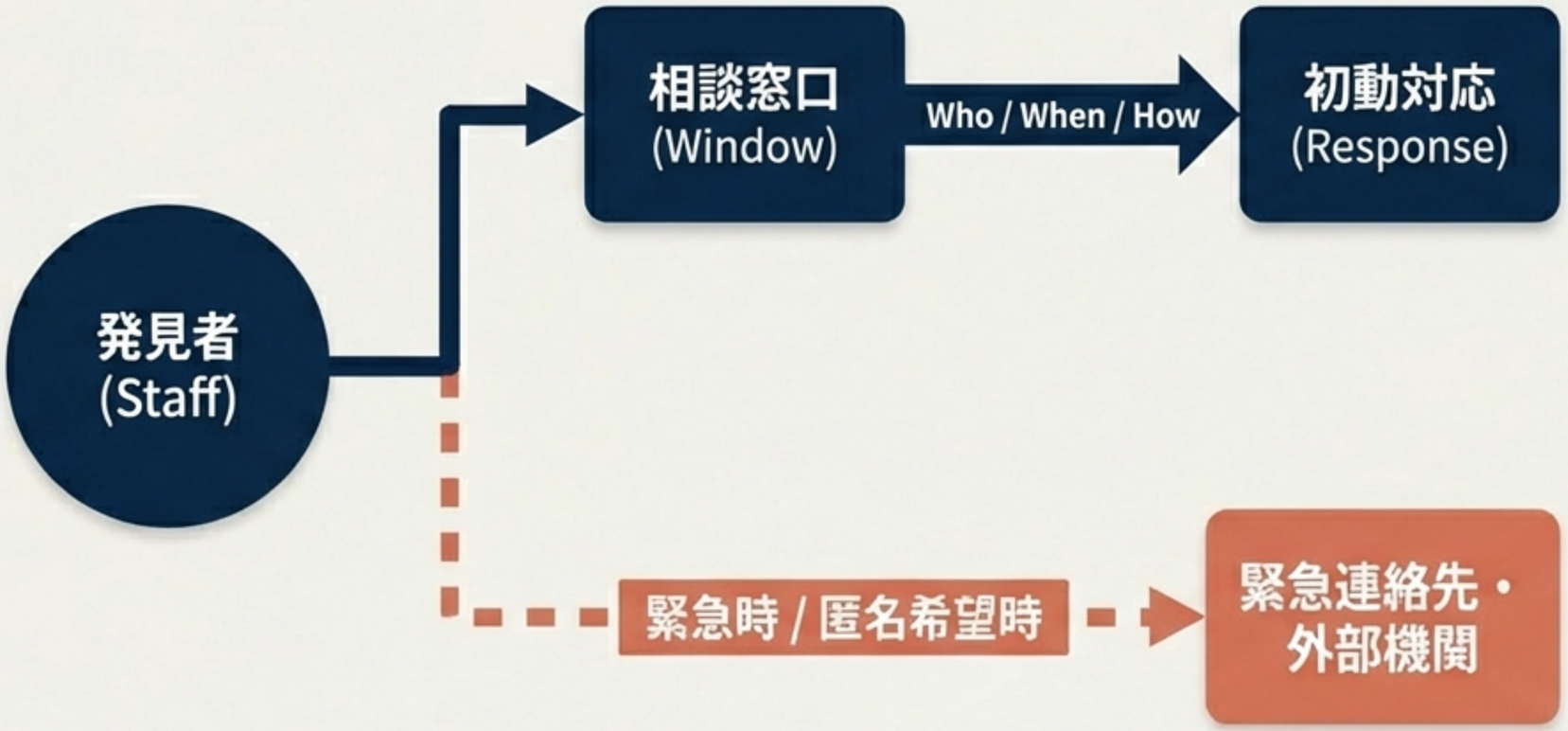
Step 1: 委員会設計（役割と頻度の定義）



- Action: 役割分担だけでなく、「開催頻度」を規程で明文化する。
- Note: 形式的な設置ではなく、実効性のあるチーム編成を行う。

NotebookLM

Step 2: 迷わせない「通報・相談ルート」の整備



定義すべき3要素

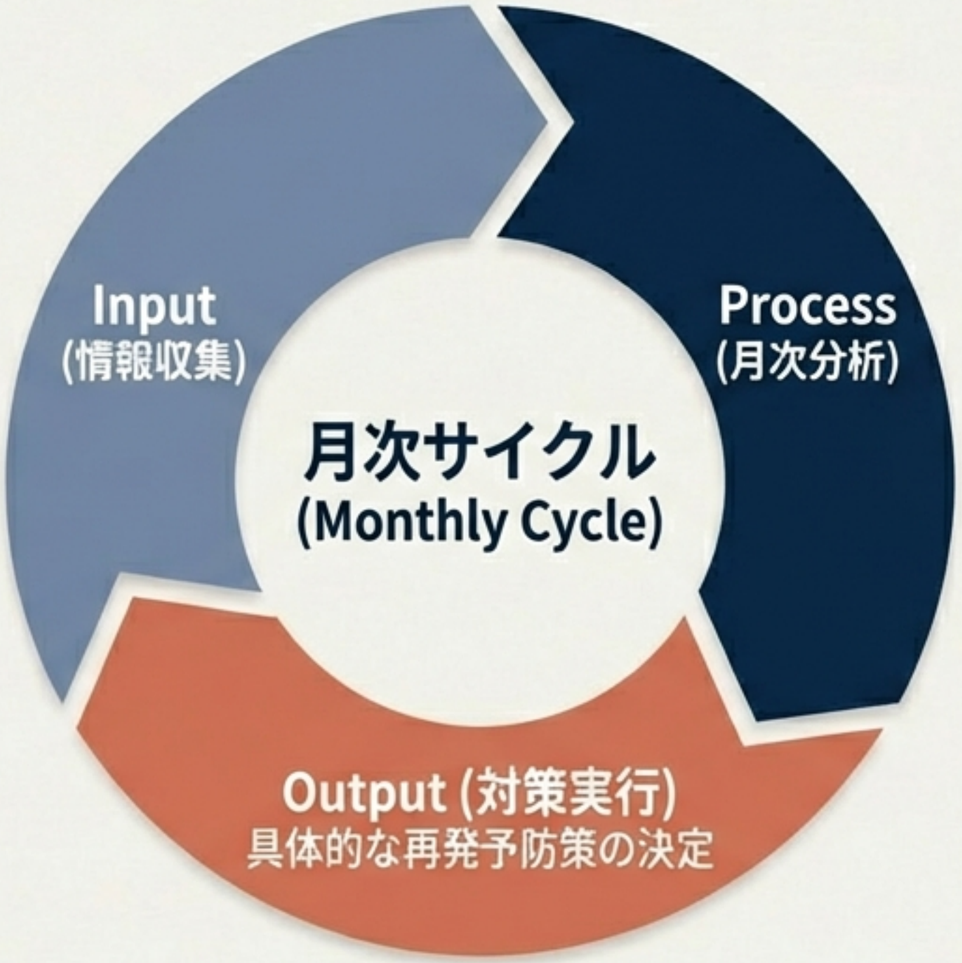
- Who: 誰に伝えるか（窓口の特定）
- When: どのタイミングで伝えるか（即時か、定例か）
- How: 手段（口頭、日報、専用BOX）

※ 匿名相談の可否も明記し、心理的ハードルを下げる。

NotebookLM

Step 3: 予兆レビュー運用（リスクの芽を摘む）

Input（情報収集）
- ヒヤリハット
- 軽微な苦情
- 利用者との関係悪化サイン



Process（月次分析）
- 委員会でのトレンド分析
- 要因特定

重大事故を待つのではなく、日常の「違和感」を分析対象とする。

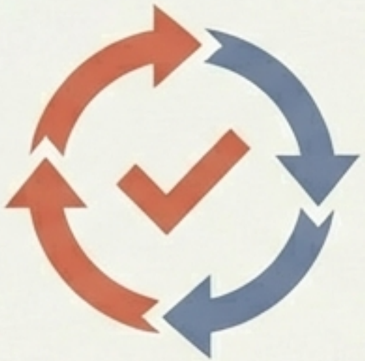
NotebookLM

Step 4 & 5: 基準の統一と是正サイクルの確立



Part 1: 研修とケース検討

- 年次研修に加え、「短時間ケース検討」を定期実施。
- 目的：スタッフ間での虐待・不適切ケアの判断基準を統一する。



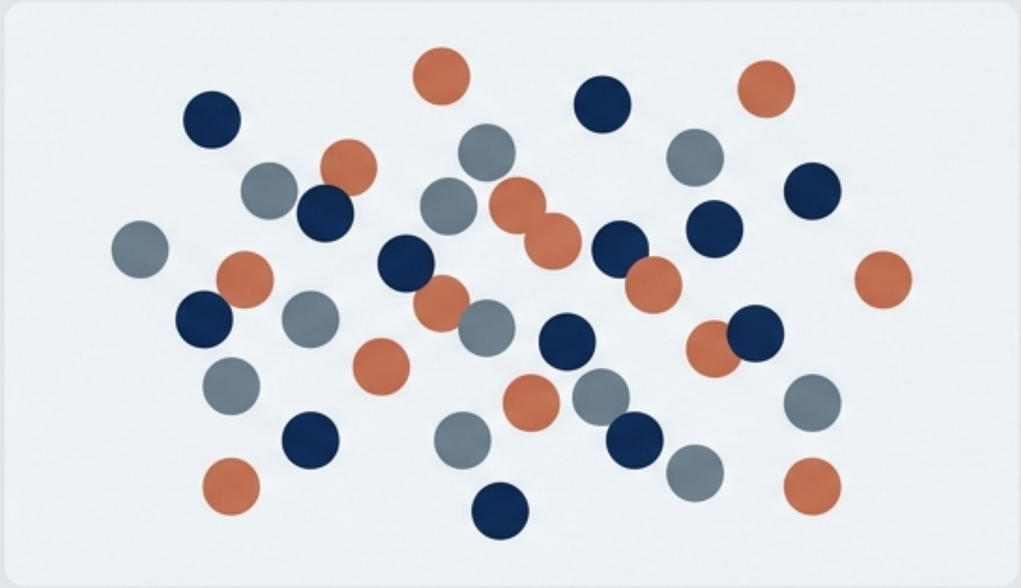
Part 2: 是正と再評価 (Loop Closing)

- 委員会で決定した改善策には必ず「期限」と「責任者」を設定。
- 次回の委員会で「改善結果」を再確認（やりっぱなしにしない）。

NotebookLM

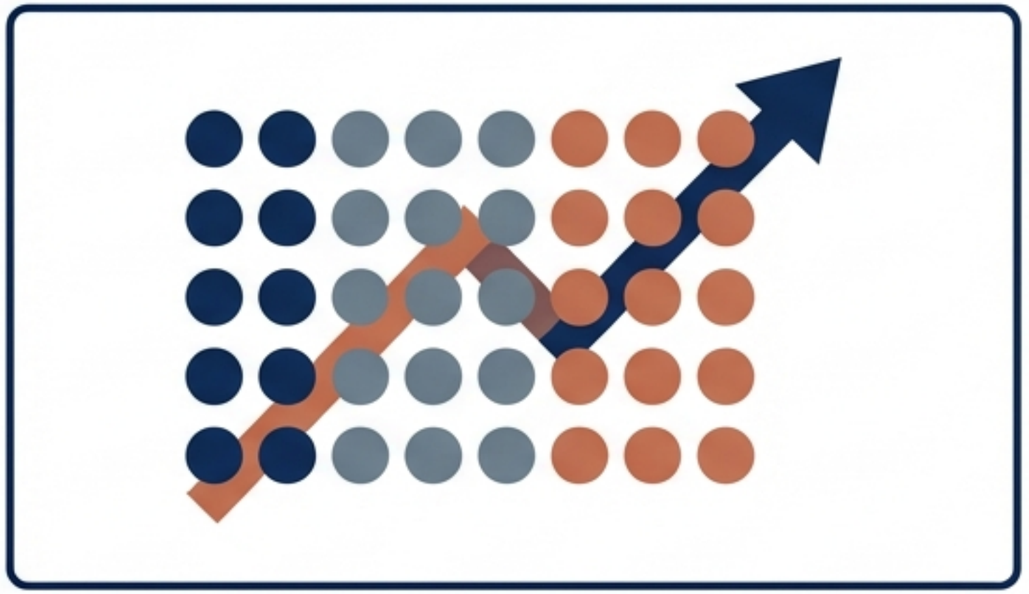
ケーススタディ：Z事業所の運用変革

Before（導入前）



・苦情対応が担当者個人で完結していた。
・同じようなトラブルが繰り返されていた。

After（導入後）



Action: 委員会を月次開催へ、予兆レビューを固定化。
Result 1: 相談件数が増加（深刻化する前の早期相談）。
Result 2: 再発率が低下（組織的な対策の実行）。

早期相談が増えることは、組織の安全弁が機能している証拠である。

NotebookLM

運用を失敗させる3つの「落とし穴」



研修だけで終わる

日常運用が変わらなければ、リスクは再発する。レビュー体制が必須。



通報を「特別対応」にする

通報の心理的ハードルを上げない。「小さな違和感」の段階で相談を促す。



議事録が抽象的

「検討する」で終わらせない。責任者・期限・再確認日を記録に残す。

NotebookLM

運用の「見える化」指標（KPI）



委員会実施率（月次）

計画どおり開催されたか

↗ 増加

早期相談率

問題が深刻化する前に
相談された割合

↘ 低下

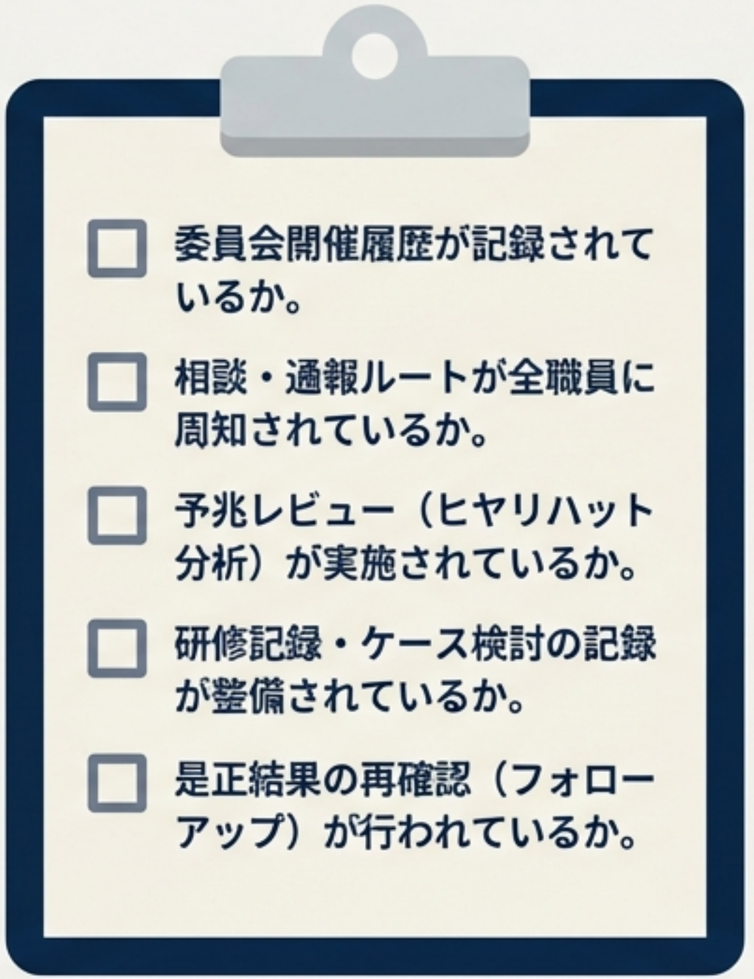
再発低減率

同種事案の再発が
減っているか

※通報件数の増加は必ずしも悪いことではない（自浄作用の証）。

NotebookLM

運用品質チェックリスト（セルフ監査）



Check your facility today.

NotebookLM

よくある質問（FAQ）

Q: 委員会の開催頻度はどの程度が適切ですか？

A: 月次開催を基本とし、重大事案時は臨時開催を行います。

Q: 通報件数が増えるのは悪い兆候ですか？

A: いいえ。早期相談が機能している証拠であり、深刻化を防ぐチャンスです。

Q: 小規模事業所でも運用は可能ですか？

A: 可能です。役割を兼務する場合でも、「議題」と「記録」を標準化することで機能します。

NotebookLM



委員会は「ブレーキ」ではなく、組織を守る「エンジン」

虐待防止委員会は、事故処理のための場ではありません。
心理的安全性を確保し、利用者と職員の双方を守るための日常的な仕組みです。
仕組みとして回り続ける設計を、今日から始めてください。

参照法令：障害者虐待防止法 / 障害者総合支援法 / 自治体虐待防止運用指針

NotebookLM